『國民新報』1940年1月28日

[主張]　英國に抗議する[[1]](#footnote-1)

を、しかものにいてしたるはをうろついてゐるである。このきはしばらくまりかへつてゐたのをつた。

、、がくの、なるをにきけたことはであるが、ひつたが一のでみるともはれぬ。そのまりなきにい一をぐさときみ、ぎつくりとさをらさなければならない。

　が、やをめるでした、は、のることをらぬとはれるそのよりもきいである。かゝるろしきは、のによつてはれざるをないであらう。三をじて、されたるのがにするだけでも、にのをちおろすにりる。々とが敵たる蔣をしてゐるをば、がにるまいにしてゐるのか。でしたわがのの一だけでになるにをせてやつたではないか。

　やのはにりつてる。ドイツとふとして、々とのにふことをせず、なきのにしてのみをつてゐるのが、でなくてであらう。わがもらくはかかる劫のとなつたものとはれる。

　アジアにするを一せよ。それがであるは蔣にをするものであり、それがであれば、なきをふである。ユニオンジヤツクが、ののに、にをい來をはざるり、その一のをも、シンガポールにまらざらしめよ。わがはにこれをしてりあるである。

　のをるゝか。のは、を導とするのをすることにある。このにいて、はとなのだ。のはから□るものであつて、からまれてるものではない。さればとてにをすことは、わがにることであるが、のをして、をするは、われの魂なのである。、、これに蔣そのをひせば、わがはにをはれるではないか。かれはやれんとする老の□□であり、われはにに□せんとするのひである。われにあり、ひまたわれにあり、てにむべきであつて、□るまい、るまいなどふべきではない。

1. この文章は単行本『同胞に寄す』に収録されていない。 [↑](#footnote-ref-1)